

# 令和3年度 あさがお福祉社会業報告書(案)

## 1. 第1種社会福祉事業

### ①軽費老人ホームの経営

ケアハウスあさがお 定員50名

### ②地域密着型介護老人福祉施設の経営(令和2年4月開所)

かごやライフ 定員29名

## 2. 第2種社会福祉事業

### ①老人居宅介護等事業の経営

ホームヘルパーステーションあさがお

### ②認知証対応型老人共同生活援助事業の経営

グループホームあさがお 定員18名

### ③老人デイサービスセンターの経営

つだまちキッチン 定員25名(平成29年2月増改築・増員)

### ④小規模多機能型居宅介護の経営

小規模多機能型居宅介護あさがお 定員29名

### ⑤障がい児通所支援事業の経営

つだまちキッズ 定員10名

つだまちスマイルキッズ 定員10名(令和1年10月開所)

### ⑥幼保連携型認定こども園の設置経営

みつぼしこどもえん 定員90名

### ⑦障がい者共同生活介護の設置経営(平成29年4月開所)

つだまちリビング 定員5名

つだまちリビング2リバーエッジ 定員4名(令和2年4月開所)

### ⑧短期入所生活介護事業の設置経営(平成29年9月開所)

かごやリゾート 定員20名

### ⑨放課後児童健全育成事業

あさがお学童保育クラブ 定員40名(平成30年4月開所)

## 3. 公益事業

### ①居宅介護支援事業所の経営

ケアネットあさがお

### ②高齢者向け優良賃貸住宅の経営

シニア向け長屋住宅あさがお邸(定員18名)

### ③高齢者有料老人ホームの経営

かごやステイ(定員10名)

## 4. 徳島市委託事業

### 配食サービス事業の経営

配食サービスセンターあさがお

## 5. その他の事業

### ①コミュニティーカフェの経営

茶房うてび庵

### ②ユニバーサルカフェの経営

つだまちキッチン

## 事業方針： 令和3年度スローガン

### 「共育(個と事業所の成長)」

#### 「あさがお福祉会の SDGs と今後10年10の目標」

##### ○法人全体事業報告

令和2年からのコロナの影響により、当法人でも感染やクラスターが多発し、事業運営に大きな影響をもたらした。特に介護事業においては新規利用者の受け入れが出来ず、また人材確保も思うように進まない状況から大幅な減収となった。しかしながら、幼児事業においては好調を維持し、今後もその伸びしろに期待できる状態まで成長した。来年度は、コロナの影響を受けた介護事業の軌道修正を行いながら稼働率を上げ、より安定経営にシフトしたい。

令和2年度以降、当法人としての取組みとして前段の話を踏まえ、以下のあさがお福祉会10の目標「あさがお SDGs」を今後10年の目標にし、取り組んだ内容を以下で報告する。

##### ○新規事業について

令和3年4月より、地域の子供見守り事業として「The Third Place」を開設した。法人内の休眠スペースを活用し、地域の中학생に対し、無料で定期的に自主学習が可能な環境を提供した。また、徳島大学生が学習支援や相談支援を直接またはオンラインで対応する取り組みも実施した。

##### ① 既存事業及びサービスの見直し

本年度はコロナ対策一色となり、既存サービス内容の見直しは十分ではなかった。しかし、次年度に向け、良質なサービスを提供する現場のスタッフ育成に注力できるよう、研修体制の見直しやシステム構築に向けた準備期間としての年であった。

##### ② 法人のブランディングの徹底

本年度は広報に力を入れ、年間レポートとパンフレットを纏めた冊子を作製した。今までの取組や年間の出来事などを可視化し、学生からご利用者のご家族が見ても内容が分かる冊子づくりに努めた。見られた方から好評をいただき、法人の価値が高まった。

##### ③ NewBusiness の開発

本年度は、徳島大学生とのコラボ企画で、コロナ禍において犠牲になりやすい“こども”に焦点を当て、子供の居場所づくり事業「The Third Place」を企画した。社会福祉法人の場所を提供し、大学生が子供の支援にあたり、行政が助成金を出す。この福官学の取組で地域支援を次年度より実施する。

##### ④ 医療とのパートナーシップ強化

感染拡大防止の観点から、参集型の会議やセミナーは数回に留まったが、各事業所の課題等を話し合う場を設けたことで医療との連携の糸口が確認できた。

⑤ 新たな働き方の提案

本年度はコロナの影響で採用は想像より厳しく、新たな働きかたの提案までは至っていない。

⑥ 地域とのより良い関係の構築

新規事業のかごやライフにて、こどもカフェを開設予定であったが、感染防止のため現在は稼働していない。次年度以降に活動開始をしたい。

⑦ AI・ICT の積極的な導入

リモートにてセミナーや会議が開催されるようになったが、法人内研修等も動画を作成し、スタッフが夜勤帯にて学習できる環境整備をした。

⑧ 他業界との業務連携

全ての事業所において、感染予防対策により外部との接触を断つことになったが、保育においては、東京の映画監督とコラボし、リモートにて遠く離れた東京と徳島をオンラインでプロの俳優による演劇指導をするなどの取り組みをした。

⑨ ふくしを10年後のなりたい仕事 TOP10に UniversalWork の推進

コロナ禍で、こどもとの関りが難しかったが、次年度はかごやライフ内でこどもカフェの運営や、様々なイベントに参加してもらい、福祉を近い存在に感じてもらい将来なりたい仕事に繋げる。

⑩ 次世代の NewHero の育成

本年度、徳島大学とのインターシップ事業により大学生との関りが多くあった。事業を通して福祉の重要性や必要性を理解してもらい、今後の仕事にも何らかの福祉との関りを持ちたいと言ってもらえた。次年度も更に学生の輪を広げ、より福祉の魅力ややりがいを伝え、福祉業界へ参画してもらい、次世代のヒーローを育てたい。

○BCP作成及び災害対策

一昨年度を振り返り、自然災害が多かった年でもあることから、災害時に強い法人運営を目指す予定であったが、コロナに対する感染予防対策マニュアルの作成やクラスター発生時の対応策などを策定するに留まった。